



学ぶべきは モノづくりへの執念

米沢支部の講演会と会員交流いも煮会
は9月6日(日)、ホテルサンルート米沢
で開催された。講演会は寒河江市・佐藤
繊維の佐藤正樹さんを講師に「地域から
世界へ」と題して講演。佐藤さんはオバ
マ大統領の就任式でミシェル夫人が着用
したニットカーディガンの素材を製造し
たことで名を知られている。講演の中で、
イタリア視察時に学ぶべきものはモノづ

くりへの執念であり、差別化、高付加価値、世界でのオンリーワンを目ざすこと。
アメリカでの見本市では日本文化を表現し、良いものを客にどう見てもらうかの
演出が必要。地域の時代を迎え、流行を追いかけるのではなく自分の作りたいもの
を作ること、自社独自品で勝負すべし、環境に合わせて進化したいと信念を披露
した。

先づもって、平成二十一年六月二十八日の「米沢有為会」百二十周年の記念すべき時に我社が表彰をいただいた事に、改めて心から感謝を申し上げなければなりません。

恥ずかしながら、米沢在社でありますが「米沢有為会」の名を知ってはいても、その事業内容やそもそも発足に関わる事柄などは全く知らずに過してきたもので、受彰のご連絡をいただいたて初めて「米沢有為会」の崇高な精神に触れた、というのが正直な所でした。(小生が山形出身であること)で「容赦の程」それにしては明治二十二年から百二十年間の永きに亘り寄宿舎と奨学金制度を維持、運営されてきたことは驚愕する事実で、同時にそのような会から表彰される事に大いなる誇りを感じた次第であります。

さて、当社は大正四年(一九一五年)二月創業で、丁度九十五周年を迎えた所ですが、昨年来「米沢有為会」の表彰を皮切りに九月、日本印刷産業連合会の「環境優良工場」および十月の「全日本シール・ラベルコンテスト」での経済産業大臣賞のダブル受賞、「世界ラベルコンテスト」の最優秀受賞、さらに今年一月の「山新3P賞」受賞と栄えある受賞が続きました。このように多くの受賞をいただいた

いた事は初めての事でしたので少し面映い思いを抱きながらも、この大不況の厳しい状況下にあつて誠に有り難く、感謝の念を以っていただきました。受賞のために奇を衒ったようなこと、為にするようなことは何もしていませんし、素より当社の自慢話をするつもりは毛頭ありません。受賞の理由を自分なりに考えた結果、主題は「教育」にありと思いがたつたのです。当社は社歴が古い分だけ昔からのルールが沢山あり、しかもそれが体系的でなく、各部門毎の通達的なものや末端では個人的なルールもあつて、極めて属人的な標準化とは程遠い。決り事で運営されていきました。これらを見直し、再構築しながら生産性を高め、品質向上を図って来たことが評価された基礎になつていと思ひます。この間、「決められたルールに基づいて行う」という極く当り前の事を定着させるために、多くの時間とエネルギー、そして寛容と忍耐が求められました。寛容と忍耐は特に若者に対して受容を求められることが多く、具体例として、ようやく基礎教育が終る入社二年後頃に離職する若者が多いという事実です。これは、目の前の一事に先づ一所懸命に努力してみるという事と自立する心の双方が希薄化している事を表

しているのではないかと考えています。誰しも入社後早い時期に流行病の如く他所見したくなるものですが、以前は辛抱することを教育されてきました。職業とは有難いもの、得難いものという観念が根底にあつたように思いますが、現代日本は何処かにそれを置いてきてしまつたのではないのでしょうか?皮肉にも今時「大不況」は職業観を見直す契機になるかも知れません。脱線しました。「教育」、人を育てるということは時間とエネルギーの関数のように思ひます。企業にとつては大きなコスト負担を供ひます。

しかしその結果、仕事の達成感を得て自信を深め、真の意味で仕事の楽しさを味わい、仕事に向かうアドレナリンを発する好循環を体現した社員は実に活々としています。そのような難いもの、職場の長として如何に多くの社員に真の仕事の楽しさを味わせられるかが最大のマネージメントであると心得ます。

翻つて「米沢有為会」の百二十年間は比較すべきもののない程、多くの先人の時間とエネルギー、そして寛容と忍耐の総和が込められていて、敬意を表するものであります。



第 20 号
平成22年 2月25日
発行者
(社)米沢有為会米沢支部
支部長 安部三十郎
米沢市金池5-2-25
☎ 0238-22-5111



精英堂印刷株式会社
代表取締役社長 鈴木高明

「教育雑感」

米沢有為会米沢支部だより

会員倍増キャンペーン

(社)米沢有為会は創設二二〇周年を迎えました。これを契機に会員倍増キャンペーンを実施しています。会員みんなが一人一名ずつの会員募集に協力くださるようお願いいたします。

現在、会員は全国で二二七〇名ほどで、米沢支部会員は六五二名です。

会員の皆さまには、歴史と伝統ある本会の人材育成事業

新しく会員になられた方々

(平成二十二年二月九日現在)

尾形敏行	大沼篤	太田和浩	黄木修太郎	大木喜義	大木正真	遠藤健一	漆山裕一	浦山栄一	宇山敏宏	牛澤敏修	稲村修功	伊藤良治	伊藤功治	安藤秀人	雨田昌記	安部元	阿部喜悦	浅黄喜悦	青木昭雄	會田昭広	
小林英喜	小林孝	小林孝	小林孝	後藤定雄	小関道博	小出君子	桑原慶一	朽木喜雄	木村兼悟	木村正俊	神尾正美	金子研司	金子吉宏	加藤利夫	加藤精一	加藤公一	柏倉昭夫	貝沼新八	小野論		
鈴木清	島津清	志摩正	洪谷茂	佐野洋	佐藤雅英	佐藤美知子	佐藤英治	佐藤俊弘	佐藤力	佐藤正志	佐藤秀一	笹原敬一	佐々木雄一郎	齋藤充博	齋藤武	齋藤繁喜	齋藤研介	近野長美	駒形吉則		
中條淳子	徳重和浩	寺島美雄	手塚文夫	縮良幸	玉虫博幸	玉橋利恭	滝口浩一	高橋義洋	高橋正志	高橋秀一	高木茂之	曾根伸之	情野養一	鈴木涼子	鈴木美佐子	鈴木達ノ助	鈴木隆	鈴木淳一	鈴木静夫		
渡部英之	我妻秀彰	米野真司	吉野芳弘	横山直人	山口義宏	山口敏春	丸山信也	前山健二	本田勝市	堀江昭浩	星野剛	舟山彰	長谷川千秋	長谷川智	布川裕行	新関寧	行方寧	中野和栄			

を誇りとし、今後も継続されるよう一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

普通会員 年額 三,〇〇〇円

特別会員 年額 七,〇〇〇円

賛助会員 年額 一〇,〇〇〇円

米沢支部役員一同

～ 活躍する会員紹介 ～ ⑧

山形県立米沢工業高等学校長

小野庄士



本校の沿革の一行目に「明29.8 有為会と米沢絹織物協同組合の発議に基づき・・・」とあります。有為会は本校の産みの親です。以来113年、多くの有為な人材を世に輩

出してきました。そして今年、これまでの取組に新たな一頁を加えることが出来ました。電気自動車の製作です。

これは、本校が取組む「ゼロエミッションプロジェクト」の一環として、地元企業の協力を受けながら、工業クラブの23人が一年半がかりで完成させたものです。色は「フェラーリレッド」に近い深紅色で、ドアが斜めに上がるガルウィングです。リチウムイオン電池を搭載し、最高時速60キロで30キロ走ることが出来ます。今後は公道を走らせることを目標にして、様々な走行テストや認証を取るための改造に取り組んでいます。

このプロジェクトは校庭に設置してある風車や太陽電池パネルで電気を起こし、環境に優しい電気自動車を走らせます。二酸化炭素が全く出ません。近未来のシステムであり、車であると言えます。この夢のような車の製作を高校生が一丸になって挑戦し、

ものづくりの楽しさ・達成感・充実感そして感動を手にしました。特に、多くの部品（車体からミッションまで）を独自に製作したことから、多くの方々から賞賛され、発表会での生徒らの顔は自信で満ちあふれておりました。

世界同時不況の影響により、米沢の基幹産業にも激震が走っています。高校生の就職戦線も前年とは大きく様変わりをしました。こんな時はしっかり足元を固め、来るべき変化に備えなければなりません。電気自動車の製作は、多くの課題も見つかり、いい勉強になりました。今年とも、ものづくり人材育成に努めますので、御支援・御協力を心からお願い致します。



120周年記念事業協賛金のお願い

有為会の事業を充実した形で次世代に引き継いでいくためにも
ご協力よろしく申し上げます。

皆様もご承知の通り昨年米沢有為会は120周年事業として、東京・仙台興讓館の大規模改修を行い、すでに学生たちは快適な環境で学業に励んでおります。

さらに今年度以降には我妻栄記念館の補修工事、また来年に制度100周年を迎える奨学金貸与制度の拡充を図る等、会本来の目的を遂行するため多額の出費が予定されています。

これらに対応し、財政基盤をより強固にして会の安定的運営を図る目的で協賛金の募集が行われることに

なりました。会員の皆様にはすでに依頼状と振込用紙が発送されお手元に届いていることでしょうか。

期間は平成21年12月1日から平成22年11月30日までの1年間、個人会員は一口5千円で二口以上、法人会員は一口3万円で一口以上お願いしております。目標額は2000万円で、厳しい環境ではありますが有為会の事業を次の世代により充実した形で引き継いでいくためにも会員をはじめ趣旨に賛同される多くの方々のご協力をお願いします。

東京興讓館寮の思い出

リレー随想 ⑦

川西町 松岸 吉晴



私は昭和二十二年四月に東京歯科大予科に入学したものの、当時の住宅事情や食糧難の為、房総東線八積駅より約一里程歩いた所の土睦村に叔母が居ったので、そこから市川迄約二時間(徒歩の分を含む)三時間近くかけて二十五年四月迄通学しました。二十五年四月歯学部入学後は水道橋迄通学でどうしようかと思案にくれてた所、二十四年秋に東京興讓館が再建され、置賜出身の学生なら入舎可能の話聞き早速訪れた所、同じ中小松の金子芳雄さんと中学で同級生の大場純一さんが居られ事情を話した所丁度欠員が出た所で、北村館長より御許しを得、五月より寮生となった次第です。長井中学卒でどうかと思つてた所置賜人と云う事で肩身のせまい思いもせず、二十九年の五月迄伸びのびと過ぎて戴き御蔭で今日あるものと感謝してます。当時の寮の様子を偲んでみますと、玄関突き当りに寮母室、右側に会議室、その奥が食堂。

左側は一、四号室六畳で突き当りが七、五畳で五号室は三人、会議室も八畳で三人部屋で計十人の寮生でした。そして驚くことに十四人の内長井中高卒が五人も居た事です。二十五年五月頃寮母は勝見さん(高橋宏館長の御親戚か?)が御子息二人と一緒に居られましたが、間もなく退職され、吉田さんと佐藤さんが舎生の世話をして下さいました。当時食糧事情の悪い中、食欲旺盛な若者の為大変な御苦労をされた事と思ます。当時水道は時間給水で、小母さんが翌日の為鍋にお汁の水、御飯釜に水をはっておく習わしだが、夜飲酒の後水道が出ない場合、お汁の水は未だ良いとして御飯の水を飲んで、それを知らない小母さんが炊いてビックリ「メッコメシ」それで皆笑いに乍ら食べたものでした。今思えば過ごせたとおもいます。

故郷に帰り大分経つてから小関薫さんが東京興讓館会を企画され、寮母さんと足立屋(米屋)さん、ざつこ屋(金木)さん等を招待され、その後も開催の温泉地へ招待しましたが、佐藤小母さんと御子息夫婦、それに金木さん御夫婦と二人の娘さん計七人は良く御出席下さいました。その佐藤小母さんも二十年九月に他界され、金木栄治さんも昨年鬼籍に入りました。佐藤小母さんが最後にOB会に来られたのは、平成十二年九月三十日の玉庭のサンマリーナで、その後体調をくずされ出席出来ませんでした。私達興讓館舎生の時代

は物はありませんでしたが心は豊かだったと少ししみじみ思います。昨年十一月十五日百二十年記念式典に参加(画)し、改めて先人の郷土を想う心とその偉業に感謝した次第です。今その跡をつぎ有為会の事業を益々発展充実させて行くのは我々OB会員の責務と思つて居ります。会員倍增運動が行なわれ居る現時点でOB八百人中会員となつてOBは三百人位。残る五百人は未入会との事実は誠になげかわしい次第です。又OB以外で支援して下さる一般の会員、創設時の先輩に対しても申し訳ない話です。事務局も大変でしょうが、OB会員連絡の時には趣意書と入会申込書を同封し勧誘した人如何でしょうか。寮に世話に在る筈です。要は心の問題で今後輩の育成の為に食ひ逃げの様な行為はなくし度いものですね。そして特別会員位になって協力しようではありませんか。(八十五才)



